**JAPANESE: LEVEL I**

*NOTE: Students are required to recite from memory **two** poems: the Mandatory Selection, as well as one from the other three poems under Second Selection.*

**Mandatory Selection**

『くまさん』　まど・みちお

はるが　きて、めが　さめて
くまさん　ぼんやり　かんがえた
さいて　いるのは　たんぽぽ　だが
ええと、ぼくは　だれだっけ
だれだっけ。

はるが　きて、めが　さめて
くまさん　ぼんやり　かわに　きた
みずに　うつった　いいかお　みて
そうだ、ぼくは　くまだった
よかったな。

**JAPANESE:  LEVEL I (cont'd.)**

**Second Selection I**

『たいりょう』　　かねこ　みすず

あさやけ　こやけだ
たいりょうだ
おおばいわしの
たいりょうだ

浜(はま) はまつりの
ようだけど
うみのなかでは
なんまんの
いわしのとむらい
するだろう

**JAPANESE:  LEVEL I (cont'd.)**

**Second Selection II**

『き』　　たにかわ　しゅんたろう

なんのき　このき
このきは　ひのき
りんきに　せんき
きでやむ　あにき

なんのき　そのき
そのきは　みずき
たんきは　そんき
あしたは　てんき

なんのき　あのき
あのきは　たぬき
ばけそこなって
あおいきといき

**JAPANESE:  LEVEL I (cont'd.)**

**Second Selection III**

『ボールペンのボール』　　さくら　ももこ

ボールペンのボールは
ときどき
いうことをきかなくなるから
わたしは
ボールペンは
すきじゃなかったけれど
ボールペンのボールは
とてもちいさくて
ちいさいあかちゃんだから
いうことをきかなくても
しかたないね。

**JAPANESE: LEVEL II**

*NOTE: Students are required to recite from memory **two** poems: the Mandatory Selection, as well as one from the other three poems under Second Selection.*

**Mandatory Selection**

『わたしと小鳥(ことり)とすずと』　　金子(かねこ)　みすゞ(ず)

わたしが両手(りょうて)をひろげても
お空(そら)はちっともとべないが、
とべる小鳥(ことり)は　わたしのように、
地面(じめた)をはやく　走(はし)れない。

わたしがからだをゆすっても
きれいな音(おと)はでないけど、
あの鳴(な)るすずは　わたしのように、
たくさんうたはしらないよ。

すずと、小鳥(ことり)と、それからわたし、
みんなちがって、みんないい。

**JAPANESE:  LEVEL II (cont'd.)**

**Second Selection I**

『ぼくが　ここに』　　まど・みちお

ぼくが　ここに　いるとき
ほかの　どんなものも
ぼくに　かさなって
ここに　いることは　できない

もしも　ゾウが　ここに　いるならば
そのゾウだけ
マメが　いるならば
そのひとつぶの　マメだけ
しか　ここに　いることは　できない

ああ　このちきゅうの　うえでは
こんなに　だいじに
まもられているのだ
どんなものが　どんなところに
いるときにも

その「いること」こそが
なににも　まして
すばらしいこと　として

**JAPANESE: LEVEL II (cont'd.)**

**Second Selection II**

『こんこんこな雪(ゆき)ふる朝(あさ)に』　　三好(みよし)　達治(たつじ)

こんこんこな雪(ゆき)ふる朝(あさ)に
梅(うめ)がいちりんさきました
また水仙(すいせん)もさきました
梅(うめ)にむかってさきました
海(うみ)はどんどと冬(ふゆ)のこえ
空(そら)より青(あお)い沖(おき)のいろ
沖(おき)にうかんだはなれ島(じま)
島(しま)では梅(うめ)がさきました
また水仙(すいせん)もさきました
赤(あか)いつばきもさきました

**JAPANESE: LEVEL II (cont'd.)**

**Second Selection III**

『からたちの花』　　北原　白秋

からたちの花が咲いたよ。
白い白い花が咲いたよ。

からたちのとげはいたいよ。
青い青い針のとげだよ。

からたちは畑の垣根よ。
いつもいつも通る道だよ。

からたちも秋はみのるよ。
まろいまろい金のたまだよ。

からたちのそばで泣いたよ。
みんなみんなやさしかったよ。

からたちの花が咲いたよ。
白い白い花が咲いたよ。

**JAPANESE: LEVEL III**

*NOTE: Students are required to recite from memory **two** poems: the Mandatory Selection, as well as one from the other three poems under Second Selection.*

**Mandatory Selection**

『道程(どうてい)』 高村(たかむら)　光太郎(こうたろう)

僕(ぼく)の前(まえ)に　道(みち)はない
僕(ぼく)の後(うし)ろに　道(みち)はできる
ああ、自然(しぜん)よ
父(ちち)よ
僕(ぼく)を一人(ひとり)立(だ)ちにさせた　広大(こうだい)な父(ちち)よ
僕(ぼく)から目(め)を離(はな)さないで守(まも)ることをせよ
常(つね)に父(ちち)の気魄(きはく)を　僕(ぼく)に充(み)たせよ
この遠(とお)い道程(どうてい)のため
この遠(とお)い道程(どうてい)のため

**JAPANESE: LEVEL III (cont'd.)**

**Second Selection I**

『にぎりこぶし』　村野(むらの)　四郎(しろう)

悲(かな)しいときや苦(くる)しいとき、
ぼくはいつも
こぶしを　かたくにぎりしめる。
すると、苦(くる)しみや悲(かな)しみは、
みんな　ぼくからにげてゆく。

勉強(べんきょう)で　なきたくなったとき、
ぼくはぐっと
こぶしを　かたくにぎりしめる。
すると、本(ほん)の字(じ)が　はっきり見(み)えてくる。

また、北風(きたかぜ)がビュービューふいて
ぼくをいじめるとき、
ぼくはむねをはり、
ぐっと、こぶしをにぎりしめる。
すると、風(かぜ)のやつ、
急(きゅう)に道(みち)ばたの木(き)へ　にげ帰(かえ)り
えだを、ガサガサ　くやしそうに
ゆすっているんだ。

**JAPANESE:  LEVEL III (cont'd.)**

**Second Selection II**

『うみの　こもりうた』　工藤（くどう）　直子（なおこ）

ちきゅうが　くるりと　まわって
よるになったら
うみも　ゆらりと　ゆれて　よるになり
たくさんの　いのちを　だいて
こもりうたを　うたう
たくさんの　いのち　うれしく
ゆめをみる

ちきゅうが　くるりと　まわって
あさになったら
うみも　ゆらりと　ゆれて　あさになり
たくさんの　いのちを　だいて
めざめのうたを　うたう
たくさんの　いのち　うれしく
わらいだす

**JAPANESE: LEVEL III (cont'd.)**

**Second Selection III**

『山頂(さんちょう)から』　　小野(おの)　十三郎(とおざぶろう)

山(やま)にのぼると
海(うみ)は天(てん)まであがってくる。
下(した)の方(ほう)で　しずかに
かっこうがないている。
風(かぜ)にふかれて高(たか)いところにたつと
だれでもしぜんに世界(せかい)の広(ひろ)さを考(かんが)える。
ぼくは手(て)を口(くち)にあてて
なにか下(した)の方(ほう)に向(む)かって叫(さけ)びたくなる。
五月(ごがつ)の山(やま)は
ぎらぎらと明(あか)るくまぶしい。
きみは山頂(さんちょう)よりも上(うえ)に
青(あお)い大(おお)きな弧(こ)をえがく
水平線(すいへいせん)を見(み)たことがあるか。

**JAPANESE: LEVEL IV/NATIVE**

*NOTE: Students are required to recite from memory **two** poems: the Mandatory Selection, as well as one from the other three poems under Second Selection.*

**Mandatory Selection**

『雨ニモマケズ』　宮沢　賢治

雨ニモマケズ
風ニモマケズ
雪ニモ夏ノ暑サニモマケヌ
丈夫ナカラダヲモチ
慾ハナク
決シテ瞋ラズ
イツモシヅカニワラッテ居ル
一日ニ玄米四合ト
味噌ト少シノ野菜ヲタベ
アラユルコトヲ
ジブンヲカンジョウニ入レズニ
ヨクミキキシワカリ
ソシテワスレズ
野原ノ松ノ林ノ蔭ノ
小サナ萓ブキノ小屋ニ居テ
東ニ病気ノコドモアレバ
行ッテ看病シテヤリ
西ニツカレタ母アレバ
行ッテソノ稲ノ束ヲ負ヒ
南ニ死ニサウナ人アレバ
行ッテコハガラナクテモイヽトイヒ
北ニケンクヮヤソショウガアレバ
ツマラナイカラヤメロトイヒ
ヒデリノトキハナミダヲナガシ
サムサノナツハオロオロアルキ

**(Cont'd on the following page)**

**JAPANESE:  LEVEL IV/NATIVE (Mandatory Selection, cont'd.)**

ミ ンナニデクノボートヨバレ

ホ メラレモセズ

ク ニモサレズ

サ(そ) ウイ フ(う) モノニ

ワ タシハナリタイ

**JAPANESE: LEVEL IV/NATIVE (cont'd.)**

**Second Selection I**

『歌はどうして作る』　与謝野　晶子

歌はどうして作る。
じっと観、
じっと愛し、
じっと抱きしめて作る。
何を。
「真実」を。

「真実」は何処に在る。
最も近くに在る。
いつも自分と一所に、
この目の観る下、
この心の愛する前、
わが両手の中に。

「真実」は
美くしい人魚、
跳ね且つ踊る、
ぴちぴちと踊る。
わが両手の中で、
わが感激の涙に濡れながら。

疑ふ人は来て見よ、
わが両手の中の人魚は
自然の海を出たまま、
一つ一つの鱗が
大理石の純白のうへに
薔薇の花の反射を持つてゐる。

**JAPANESE: LEVEL IV/NATIVE (cont'd.)**

**Second Selection II**

『生(い)きる』　　谷川(たにかわ)　俊太郎(しゅんたろう)

生(い)きているということ
いま生(い)きているということ
それはのどがかわくということ
木漏(こも)れ日(び)がまぶしいということ
ふっと或(あ)るメロディを思(おも)い出(だ)すということ
くしゃみをすること
あなたと手(て)をつなぐこと

生(い)きているということ
いま生(い)きているということ
それはミニスカート
それはプラネタリウム
それはヨハン・シュトラウス
それはピカソ
それはアルプス
すべての美(うつく)しいものに出会(で あ)うということ
そして
かくされた悪(あく)を注意深(ちゅういぶか)くこばむこと

生(い)きているということ
いま生(い)きているということ
泣(な)けるということ
笑(わら)えるということ
怒(おこ)れるということ

**(Cont'd on the following page)**

**JAPANESE: LEVEL IV/NATIVE (Second Selection II, cont'd.)**

自由(じゆう)ということ

生(い)きているということ
いま生(い)きているということ
いま遠(とお)くで犬が吠(ほ)えるということ
いま地球(ちきゅう)が廻(まわ)っているということ

いまどこかで産声(うぶごえ)があがるということ
いまどこかで兵士(へいし)が傷(きず)つくということ
いまぶらんこがゆれているというこ と

いまいまがすぎてゆくこと

生(い)きているということ
いま生(い)きてるということ
鳥(とり)ははばたくということ
海(うみ)はとどろくということ
かたつむりははうというこ と

人は愛(あい)するということ
あなたの手(て)のぬくみ
いのちというこ と

**JAPANESE: LEVEL IV/NATIVE (cont'd.)**

**Second Selection III**

『挨拶(あいさつ)——原爆(げんばく)の写真(しゃしん)によせて』　　石垣(いしがき)　りん

あ、
この焼(や)けただれた顔(かお)は
一九四五年八月六日(むいか)
その時広島(ひろしま)にいた人
二五万の焼(や)けただれのひとつ

すでに此(こ)の世(よ)にないもの

とはいえ
友(とも)よ
向(む)き合った互(たがい)の顔(かお)を
もう一度見直(みなお)そう

戦火(せんか)の跡(あと)もとどめぬ
すこやかな今日(きょう)の顔(かお)
すがすがしい朝(あさ)の顔(かお)を

その顔(かお)の中に明日(あす)の表情(ひょうじょう)をさがすとき
私はりつぜんとするのだ

地球(ちきゅう)が原爆(げんばく)を数百個(こ)所持(しょじ)して
生と死のきわどい淵(ふち)を歩(ある)くとき
なぜそんなにも安(やす)らかに
あなたは美(うつく)しいのか

しずかに耳を澄(す)ませ

**(Cont'd on the following page)**

**JAPANESE: LEVEL IV/NATIVE (Second Selection III, cont'd.)**

何かが近(ちか)づいてきはしないか
見きわめなければならないものは目の前(まえ)に
えり分(わ)けなければならないものは
手(て)の中にある
午前八時一(じゅう)五分は
毎朝(まいあさ)やってくる

一九四五年八月六日(むいか)の朝
一瞬(いっしゅん)にして死んだ二五万人の人すべて
いま在(あ)る
あなたの如(ごと)く 私の如(ごと)く
やすらかに 美しく 油断(ゆだん)していた。